

樹種それぞれの特徴を生かした木製玩具の教育的意義に関する一考察

— 木製玩具の開発を通じた実践的研究 —

教育デザインコース 美術領域
轟 颯馬

1. はじめに

筆者が木彫作品の制作を通して感じた木の魅力を子供たちにも体感して欲しい。そして、その体感は子供たちにとって木に関わる様々な学問領域への知的好奇心や興味関心につながるのではないかと考えた。

しかし、刃物で木を彫り造形することは現代の子供たちにとってリスクが大きすぎる。

そこで、子供たちが気軽に様々な樹種の特徴を感じられる玩具を開発しようと考えた。そして、その教育的意義について考察することで、素材としての木の新たな可能性を提案したい。

2. 方法

- ① 木製玩具の歴史と現状の調査
- ② 試作品の制作とそれを使用する子供の観察、アンケート調査による教育的意義の検証、造形的な課題の明確化
- ③ 課題の改善と再検証
- ④ 木に関わる様々な専門家への聞き取り調査
- ⑤ 検証と専門家への聞き取り調査を踏まえた玩具の完成
- ⑥ 開発した木製玩具の教育的意義についての考察と素材としての木の新たな可能性の提案

3. 試作品による検証と結果

～試作品について～

樹種による比重の違いに注目し、並べ方によって変化する重心を探りながら、色やにおいなど様々な樹種ごとの特徴を比較し体感する。



図 1



図 2

～検証について～

2017年12月2日3日の2日間にわたって神奈川県川崎市の川崎市市民ミュージアムにて開催された造形ワークショップイベント「アートツールキャラバン」に第1回の検証の場を求めた。

この検証では、試作品を訪れた子供が自由に使用可能な方法で設置した。そして、試作品を実際に使用する子供の姿の観察を中心に検証を行った。

I 使用方法を解説した場合



図 3



図 4

樹種によって重さが違うこと、物は同じ体積でも重さが違うことを学ぶ姿があった。

II 使用方法を解説しない場合



図 5



図 6

重さ比べをしていないものの樹種による色の違いを意識しながら造形する姿(図5)や、並べる行為の中で木の手触りを楽しむ姿(図6)があった。

4. 考察

樹種による違いを感じる子供の姿が見られたものの、木に関わる様々な学問領域への興味関心につながったかどうか、明らかではない。

より使用方法がわかりやすい形への改善と検証方法の模索が今後の課題となった。